

# 富山県

## 将来も安心して質の高い医療を受けられる富山県を目指して

資料の概要： 富山県では、平成29年3月に地域医療構想を策定し、①病床の機能分化・連携の促進、②在宅医療等の充実、③医療従事者の確保・養成の3つを施策の柱として、地域医療の充実に向けた取組みを推進している。

病床の機能分化・連携については、医療機関の自主的な取組みにより、急性期機能病床から回復期機能病床への転換が進むなど順調に推移している。

今後は、引き続き病床の機能分化・連携を推進するとともに、在宅医療の充実や医療従事者の確保・養成に重点的に取り組んでいく必要がある。

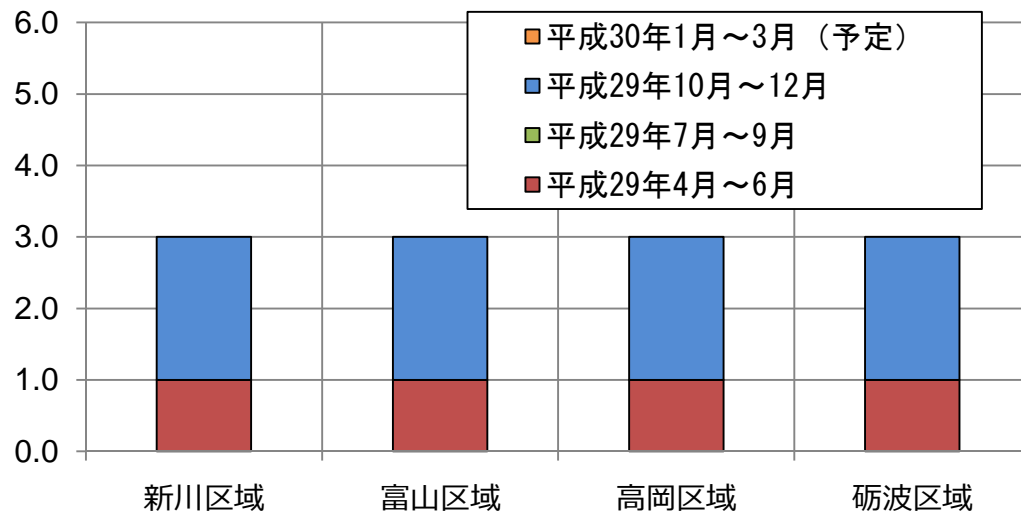


## 2 富山県の特徴

- 本県の人口は、平成25年（2013年）に国立社会保障・人口問題研究所が公表した推計によれば、今後も減少が続き、平成37年（2025年）には98万6千人になり、平成27年（2015年）から10年間で7万8千人減少することが見込まれている。
- 平成27年（2015年）10月1日現在の本県の人口に占める65歳以上の割合は30.5%（平成27年国勢調査）で、全国の26.6%（平成27年国勢調査）よりも3.9ポイント高くなっており、全国を上回る高齢化が進んでいる。
- 本県における75歳以上の高齢者単独世帯は、平成37年（2025年）には29,420世帯と予測され、平成27年（2015年）から10年間で約8千世帯の増加が見込まれている。
- 本県における夫婦のみの高齢世帯は、平成37年（2025年）には28,741世帯と予測され、平成27年（2015年）から10年間で約8千5百世帯の増加が見込まれている。
- 富山県の共働き世帯数は、134,285世帯で、共働き率は54.7%と、全国平均の45.7%を上回り、全国5位の高さとなっている。
- 平成27年（2015年）10月現在、病院数は107施設であり、人口10万人あたりでみると、10.0施設と全国平均の6.7施設を上回っている。また、一般診療所数は763施設であり、人口10万人あたりでみると、71.5施設と全国の79.5施設を下回っている。そのうち、有床診療所数は50施設であり、人口10万人あたりでみると、4.7施設と全国の6.3施設を下回っている。
- 平成27年（2015年）10月現在、病床数は16,875床となっており、人口10万人あたりでみると、病院が1,581.7床と全国平均の1,232.0床を上回っている一方で、一般診療所は63.9床と全国平均の84.7床を下回っており、病院の病床が多い傾向となっている。
- 一般病床の病床利用率は72.6%で、全国平均の75.0%を下回っており、一方で、療養病床の病床利用率は94.6%で、全国平均の88.8%を上回っている。
- 平成27年（2015年）の一般病床の平均在院日数は16.2日で、全国平均の16.5日を下回っており、一方で、療養病床の平均在院日数は256.5日で、全国平均の158.2日を上回っている。
- 平成28年（2016年）10月現在、公的病院の数は24施設あり、一般病床の8割以上を占めるなど、これまで主に高度急性期、急性期機能を担ってきた。

### 3 地域医療構想調整会議における議論の進捗状況

#### ■ 構想区域ごとの調整会議の開催状況（開催延べ回数）（平成29年12月末時点）

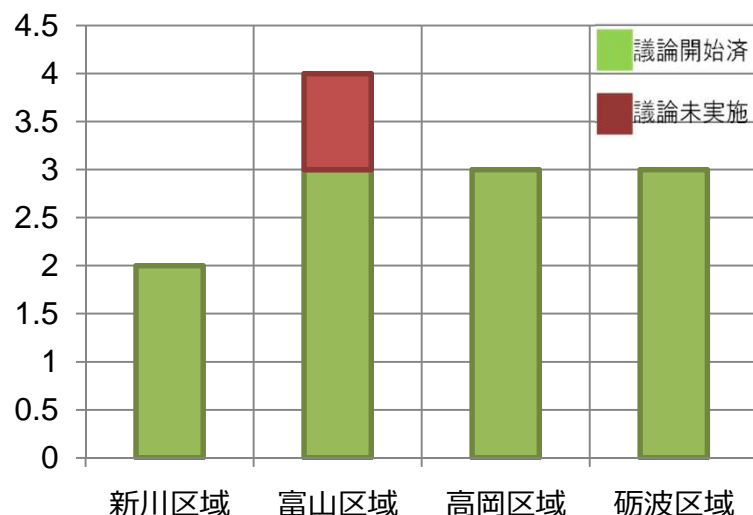


#### ■ 意見交換会等の取組例

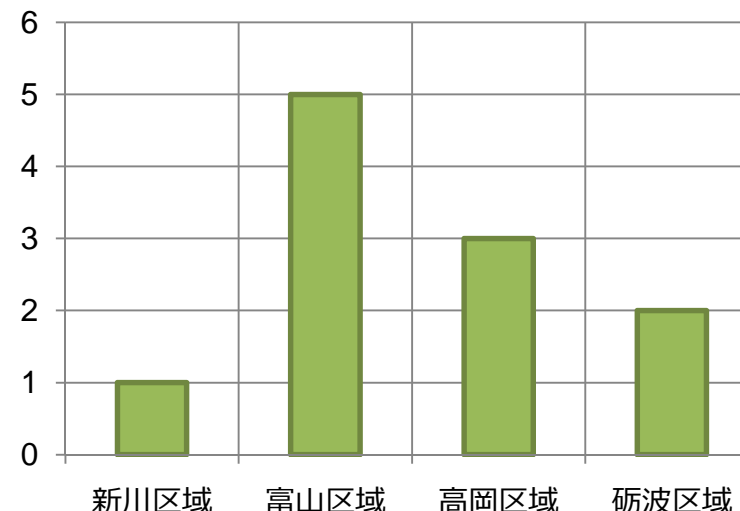
全公的病院を個別に訪問し、各病院の今後の取組み等について、病院長等と意見交換を行っている。

## 4 新公立病院改革プラン及び公的医療機関等2025プランの進捗状況

- 構想区域ごとの新公立病院改革プランについて、調整会議での議論を開始した病院数／策定対象病院数



- 構想区域ごとの公的医療機関等2025プランについて、調整会議での議論を開始した病院数／策定対象病院数



### ■ プランの活用について

#### 協議の進め方及び活用方法

- ・ 策定したプランを地域医療構想調整会議の場で病院長から報告してもらい、議論を開始
- スケジュール

- ・ 第1回地域医療構想調整会議で、新公立病院改革プランについて議論

〔 あさひ総合病院、黒部市民病院、かみいち総合病院、富山県立中央病院、富山市立富山市民病院、射水市民病院、高岡市民病院、金沢医科大学氷見市民病院、市立砺波総合病院、南砺市民病院、公立南砺中央病院 〕

- ・ 第2回・第3回地域医療構想調整会議で、公的医療機関等2025プランについて議論

〔 第2回：富山労災病院、厚生連滑川病院、富山大学附属病院、富山赤十字病院、富山県済生会富山病院、富山県済生会高岡病院、独立行政法人地域医療機能推進機構高岡ふしき病院、厚生連高岡病院、公立学校共済組合北陸中央病院、独立行政法人国立病院機構北陸病院 〕

〔 第3回：独立行政法人国立病院機構富山病院 〕

## 5 地域医療構想の達成に向けた独自の工夫

- 本県では、公的病院が一般病床の8割以上を占めており、病床の機能分化・連携を進めるためには、公的病院が今後、どのような機能を担っていくのかを地域で共有することが必要であり、地域医療構想策定後速やかに、地域医療構想調整会議で新公立病院改革プラン等を各病院長から説明。
- 地域医療構想調整会議で多くの関係機関と協議するとともに、全公的病院を個別に訪問し、各病院の今後の取組み等について、病院長等と意見交換を行っている。
- 急性期機能等から回復期機能への病床転換の支援を行っているが、新たに、一般病床から医療介護連携を推進するための施設等に転換する病院への支援策を検討しているところである。

## 6 医療機関の再編・統合の参考事例

参考事例なし

## 7 都道府県としての来年度への抱負

### 地域医療構想調整会議の運営について

引き続き、地域医療構想調整会議を定期的を開催する。

### 医療機関の機能分化・連携の支援について

急性期機能等から回復期機能への病床転換の支援を行っているが、新たに、一般病床から医療介護連携を推進するための施設等に転換する病院への支援策を検討しているところである。

### 介護施設・在宅医療等の整備について

高齢者の尊厳の保持や在宅介護の推進、住み慣れた地域での生活の継続や復帰を支援する観点から、富山型デイサービス、地域密着型サービスの整備・普及を推進する。

また、疾病や障害があっても、可能な限り自宅などの住み慣れた地域で療養することができるよう、24時間365日対応可能な在宅医療提供体制の構築に努める。